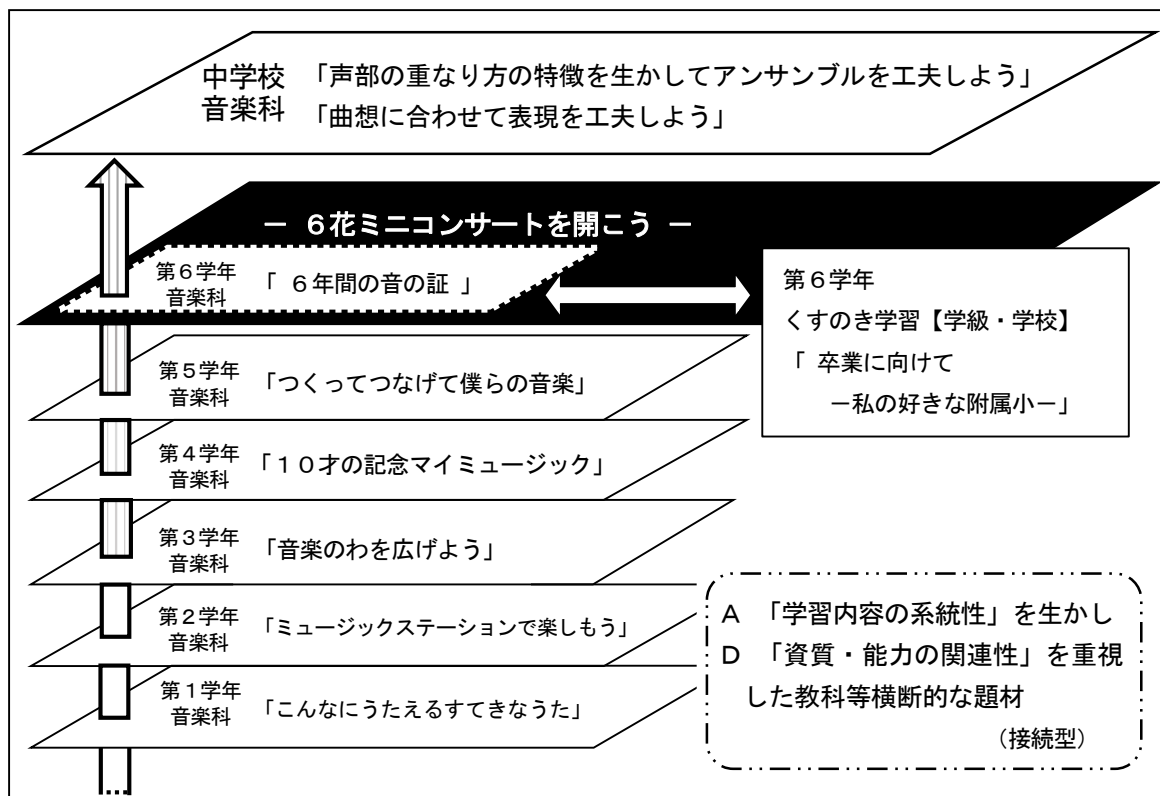


第6学年花組 音楽科（+くすのき学習【学級・学校】）

「6年間の音の証 -6花ミニコンサートを開こう-」

指導者 松井 見磨

1 題材全体構想図



2 題材構想について

本題材は、A「学習内容の系統性」を生かし、D「資質・能力の関連性」を重視した、接続型の教科等横断的な題材である。

本学級の子どもは、音楽を心から楽しみながら思い切った表現ができる。前題材「楽しく響け！仲間と心のハーモニー」では、校内音楽会に向けてクラス合奏や学年合唱に挑戦した。自分のパートに責任を持って練習し、リズムを合わせようと意欲的に取り組む姿や、心を合わせて歌う喜びを感じるだけでなく、言葉や旋律から感じ取ったことを伝え合ったり、それを生かした豊かな音楽表現を求めたりする姿も多く見られた。これまで身に付けてきた資質・能力を伸ばし、一人一人が主体的に仲間とのハーモニーを味わいながら、達成感を感じることができた。三学期は、子どもにとって6年間の学校生活を振り返り、卒業までの日々をどう過ごしていくのか考える時期である。くすのき学習【学級・学校】では、卒業プロジェクトを立ち上げて、多くの人々に支えられてきたことに感謝しながら、自分たちなりにその思いを表現していく。自他の成長に気付くとともに、小学校生活の意味や価値を問い直すことができるこの学習と、本題材を関連させることで、学びの空間を広げることができ、音楽科での学びが更に深まったり広がったりすることが期待できると考えた。

本題材では、自分の成長を振り返ったり、自分のよさを見詰めていながら「6花ミニコンサート」を開く。今までの音楽の捉え方を見詰め直すとともに、仲間の見方や考え方に触れながら、生涯を通じて音楽を楽しみたいという思いが高まる、小学校のまとめとして適した題材である。

「出会い」の場面では、自分たちらしさを生かしたプログラム構成を考えさせ、学級で取り組む楽曲、グループで取り組む楽曲を決めていく。プログラム全体のバランス、自分らしい表現、練習時間や方法の条件などを全体で共有し、コンサートまでの見通しを持たせる。また、個々の音楽性

がしっかりと発揮できる場となり得るよう、自分に合った表現方法を選択させる。さらに、聴き手の思いを考えることで、自分の思いをより豊かに膨らませようと、自分たちなりのそうぞう力を高めることにもつながるだろう。

「追究」の場面である本時は、音楽の仕組みを手掛かりに試行錯誤しながら、伝えたい音楽のイメージをもって表現を深めていく。互いの表現のよさを聴き合い共有できるような、仲間とかかわることができる場面や時間を十分に保障する。また、旋律の動きや重なりを踏まえた表現の工夫を探り、様々な発想を得たり広げたりしながら、自分にとって価値のある音楽を仲間と共にそうぞうしていく過程を大切に進めていきたい。

3 題材のねらい

- 曲想を基にしなが、リズムや旋律、音楽の構造などについて理解し、表現の工夫ができる。
- 仲間と協力して、互いのよさを生かしなが、曲の特徴にふさわしい表現を工夫しようとする。
- 6年間学習してきた音楽の力を見詰め、自分のイメージのよりよい表現に向けて試行錯誤しながら、様々な楽曲の表現に楽しく挑戦しようとする。

4 題材の指導計画（全8時間）

場面	子どもの課題意識と主な学習活動	評価の規準	時間
出 合 い	<p>ミニコンサートを企画しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 企画準備を始め、様々な役割を分担する。 ○ コンサートの構成や、自分らしい表現ができる表現方法を決める。 ○ 自分たちの思いが伝わる楽曲を選曲し、練習に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分らしさが伝わる音楽表現をしっかりと見詰めている。 ● 伝えたい音楽のイメージをしっかりと持って、主体的に取り組もうとしている。 	7 本 時 その4
	<p>卒業式の歌の練習をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 式典で歌う楽曲の練習を進め、一人一人が卒業に向けての思いを高めていく。 		
追 究	<p>ミニコンサートに向けて、表現を工夫しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ グループでコンサートの準備や練習を進める。 ○ 6年間の思いや練習の成果を発揮するために、旋律の動きや重なりを踏まえた表現の工夫を探る。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 互いの表現のよさを認め合い、考えを共有しながら、互いの価値を尊重したり、自分たちなりに価値付けたことを見詰め直したりしようとしている。 	
振 り 返 り	<p>「6花ミニコンサート」を楽しもう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 聴き手の思いを考えたり、仲間とのハーモニーを味わったりしながら、音楽でつながる絆を体感する。 ○ 交流の1年生や保護者を招いて、ミニコンサートを開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 表現のよさや工夫を聴き味わいながら、見方や感じ方を広げている。 ● 自分の思いを持って、仲間と楽しく合わせたり、聴き手の思いを考えたりして、音楽を伝えようとしている。 	1

5 題材における指導の工夫

場面	三つの場面ごとの子どもと「つなぐ」指導の工夫（学習材・他者・自分自身）
出 合 い	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでに経験してきた学習を振り返りながら、自分の思いや意図が聴き手に伝わる表現について全体で共有し、自分に合った学び方（楽曲や表現方法）を選べるようにすることで、活動への自信や期待感を高める。（学） ・ 学習のゴール「6花ミニコンサート」を決定し、表現方法が同じグループごとに企画準備したり、課題意識を明確にさせたりしながら、学習の見通しを持たせる。（学・他）

追 究	<ul style="list-style-type: none"> 互いの表現のよさに気付いたり、認めたりすることができる時間や場を設定することで、協力して音楽をそうぞうする楽しさや充実感を感じられるようにする。(他) どのように表現したいかについて、思いや意図を十分に持つことができるように振り返りを記述させながら、自己評価や相互評価をさせたりする。また、仲間とそうぞうしていく過程で生まれる、新しい気付きを丁寧に見取る。(他・自)
振 り 返 り	<ul style="list-style-type: none"> 本題材を通じて、音楽表現が更に高まったことを価値付けたり、全体で共有したりしていくことで、学びの成果や気付きを、自分自身で振り返ったり見詰め直したりすることにつなげる。(自)

6 評価の具体的な方法

	「深い学び」につながっていく子どもの姿 [主な評価方法]	評価の視点
出 合 い	<ul style="list-style-type: none"> ミニコンサートに向けて、プログラム構成や自分らしさが伝わる表現方法を考え、意欲を持って主体的に取り組もうとしている。 <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ やってみたいな。 ・ 挑戦したいな。 ・ 1年生はどんな曲が好きかな。 ・ 楽器が得意だから打楽器アンサンブルにしようかな。 </div> <p style="text-align: right;">[様態・対話・記述]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 伝えたい音楽のイメージをしっかりと持って、これまで積み重ねてきた「音の記憶」を見詰め直し、ミニコンサートへの期待感を感じている。 ○ どのように表現するかについて、思いや意図をもって取り組んでいる。
追 究	<ul style="list-style-type: none"> 思いやイメージを十分に持って、旋律の動きや各声部の役割、重なりなどを意識しながら、仲間と音楽をそうぞうしていく過程を楽しんでいる。 <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音の重なりをしっかりと聴き合って弾いてみよう。 ・ リズムが反復する面白さを、どう伝えようかな。 ・ 旋律の動きにあった強弱の変化をつけてみよう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> 仲間の音楽にも興味を持ち、見付けたり共感した気付きを自分の表現に取り入れたりしようとしている。 <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちらしい表現の工夫が伝わるといいな。 ・ 他のグループの表現の工夫を参考にしてみようかな。 ・ 自分たちの演奏にも生かせようだな。 </div> <p style="text-align: right;">[発表・表情・録音・記述]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 音楽を形づくっている要素や音楽の仕組みを手掛かりとして仲間と協働しながらよりよい表現に迫ろうとしている。 ○ 自分たちが表したい音の響きの組合せを試したり、互いの表現のよさなどを見だしながら聴き味わったりすることができる。
振 り 返 り	<ul style="list-style-type: none"> 自らの成長を実感しながら、互いの表現のよさに気付いたり、認めたりしようとしている。 <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ アレンジによってこんなに曲の雰囲気が変わるんだね。 ・ 他のパートを感じながら表現できていたよ。 ・ パートのバランスがいいね。 </div> <ul style="list-style-type: none"> 本題材の活動全体を振り返り、学びの成果や手応えを感じたり、更にこんなこともやってみたいと思ったりしている。 <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちらしい音楽が伝えられてよかったな。 ・ これまでの学習の成果が出せて嬉しいな。 ・ 中学生になっても、いろんな楽器に挑戦したいな。 </div> <p style="text-align: right;">[発表・対話・様態・記述]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ミニコンサートに向けて音楽をつくったことで、達成感や満足感を感じている。 ○ そうぞうした新たな音楽を見詰めることで、更なる発展を見いだしている。

7 本時の授業（4／8）

- (1) 日時 令和2年1月31日（金）9:30～10:15
 (2) 場所 第2音楽室
 (3) ねらい 旋律の動きや重なり、リズムを生かしながら、それぞれの曲の特徴にふさわしい表現を工夫しようとする。
 (4) 準備物 グループ発表の楽譜、グループ発表の楽器等
 (5) 展開

学 習 活 動	予想される子どもの意識の流れ	指導（○）と評価（●）
1 クラスでの発表曲を合唱する。	<p>ハーモニーを味わいながら歌おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・互いの声を聴き合いながら響かせて歌おう。 ・音程が上がる所はエネルギーがいるな。 ・ユニゾンの部分はどうやって歌おうかな。 ・音の動きを感じると自然に強弱がつくよ。 	○ 旋律の重なりやリズムを意識して歌いながら、自信を持って表現できる雰囲気を作る。
2 グループでの発表曲を練習する。	<p>グループの発表曲の練習を楽しもう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日は少しずつ合わせながらやってみよう。 ・この旋律に合いそうなリズムを考えよう。 ・もっとうまくになりたいな。 ・繰り返しを入れたらどうなるかな。 	○ 演奏や読譜に関する技能の支援が必要なグループには、アレンジした楽譜を用意する。
3 よさや工夫点を全体で共有する。	<p>他のグループの演奏を聴いてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なるほど！私たちも試してみたいな。 ・そんな工夫の仕方もあるんだね。 ・もっと○○な感じを音で伝えたいんだけど。 ・アドバイスもらいたいな。 	○ 楽譜と音との関連を分かりやすくすることで、曲の特徴について理解を深められるようにする。
4 新たな考えを自分たちの表現に生かす。	<p>もっと伝わるために表現の工夫をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・反復を使うとまとまりが出てきたね。 ・リズムを少し変化させてみよう。 ・重ねてみたらどうなるかな。 ・この部分は練習が必要だね。 ・友達のアドバイスでよくなりそう。 	○ 表現の工夫を取り上げ、よさを全体で共有する。
5 本時を振り返る。	<p>コンサートに向けてイメージを広げよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もっとよくしていきたいな。 ・少しずつ仕上がってきたね。もっと練習しよう。 ・成長の証が伝わる発表にしていこう。 ・1年生に聴いてもらうのが楽しみだな。 	○ 表現の工夫を取り上げ、よさを全体で共有する。 [様態・発表・記述] ● 旋律の動きや各声部の役割を感じながら、よりよい表現をつくりだそうとしているか。 ○ 本時を振り返ることで、コンサートに向けてイメージを膨らませる。